

2025 年度教員南極派遣プログラム 募集要項

教員南極派遣プログラムは、国立極地研究所が文部科学省（南極地域観測統合推進本部）との連携のもと、日本極地研究振興会の協賛を得て、極域科学や極地観測に興味を持つ小・中・高校等の現職教員を南極地域観測隊の同行者として南極に派遣するものです。南極での経験を活かした帰国後の授業や、南極・昭和基地から所属校に対して実施する「南極授業（※）」を通じて、国内の小・中・高等学校等の児童生徒に対して、南極に関する理解向上につながる活動をしていただくことを目的としています。さらに、その活動を通じ、派遣教員自身が南極、地球環境及び南極地域観測事業等に関する知識を習得し、自己研鑽を積むことも期待しています。

※「南極授業」とは

派遣教員が自身の計画に基づいて授業を作成し、昭和基地と国内を衛星回線で結んで所属校に向けて行う授業です。授業内容は、南極の多様な価値への理解・興味・関心の向上を目的としたものであれば教科は問いません。

1. 応募教員の資格

教員免許を有し、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校に現職として勤務する教員であること。勤務先は日本国内のみとする。

2. 応募の条件

（1）応募教員の条件

- 1) 極域科学と極地観測等に興味と関心を持っていること。
- 2) 帰国後の教員としての活動において、本プログラムへの参加から得られた知識や経験を用いて、児童生徒の南極に関する理解向上につながる活動を継続して行うこと。
- 3) 「南極授業」の企画立案、準備および実施ができること。
- 4) 所属する学校長の許可が得られること。
- 5) 次に記載する教育委員会等（以下、推薦者という。）の推薦が得られること。
 - ・応募教員の所属が公立学校の場合、所属校を所管する教育委員会。
 - ・応募教員の所属が国立大学附属学校、公立大学附属学校、私立学校の場合、学校長または法人代表者。

（2）推薦者の条件

本プログラムへの教員の参加に際して、出張や研修等として取り扱えること（派遣期間中の給与を負担すること）。

3. 募集期間

2024 年 9 月 20 日（金）～2024 年 12 月 5 日（木）17:00

4. 派遣人数（予定）

2 名

5. 派遣期間（予定）

2025 年 11 月下旬～2026 年 2 月下旬

（昭和基地での滞在期間：2025 年 12 月下旬～2026 年 2 月上旬）

6. 選考方法

国立極地研究所が設置する 2025 年度教員南極派遣プログラム派遣候補者選考委員会で選考します。選考は、書類審査及び面接により実施します。

（1）第一次選考： 書類審査

第一次選考の通過者には、2024 年 12 月 18 日（水）までに E メールで連絡します。

応募教員と推薦者の事務担当者、それぞれに連絡します。第一次選考に通過しなかった方については、この段階での連絡は行いません。

（2）第二次選考： 面接（2024 年 12 月 27 日（金））、1 人あたり約 30 分）

オンライン（Zoom 等）で実施します。

7. 選考基準

以下の観点から総合的に評価し、選考します。

① 着眼点・アイデア

その教員独自の視点があるか。南極ならではのアイデアが盛り込まれているか。

② 実現可能性

南極観測について良く調べており、知りえた範囲で実現性のある計画となっているか。

③ 帰国後の発展性

派遣後の活動に意欲や具体性はあるか。

④ 健康状態

国内に比べて医療面で制約のある南極において、活動が可能な健康状態であるか。

8. 選考結果の通知

2025 年 1 月中旬に、推薦者を通じて書面で通知します。

9. 応募方法

（1）応募教員が以下の書類を作成し、所属する学校へ提出ください。

1）2025 年度教員南極派遣プログラム応募用紙（様式 1）

2）履歴書（様式 2）

- 3) 帰国後の本プログラムに関する活動計画（様式自由、A4 サイズ、4 ページ以内。ページ番号（現在のページ数/全ページ数）を付すこと）
 - 4) 「南極授業」計画案（昭和基地から自分ならこのような授業をするという内容）
（様式自由、A4 サイズ、4 ページ以内。ページ番号（現在のページ数/全ページ数）を付すこと）
1 コマ 45 分程度とし 2 コマ分を作成すること。南極で行う授業のコマ数については、当該観測隊の全体計画を踏まえて後日正式決定しますが、1 名につき 2 コマ程度を予定しています。
 - 5) 健康状況の分かる書類
 - ①所属先等での直近の健康診断結果（写可）
無い場合はお手数ですが、受診医療機関で結果の再発行をお願いします。
 - ②現在かかっている病気等がある場合はその診断書（写可）
 - ③健康調書（教員南極派遣プログラム用）（様式 3）
- (2) 応募教員が所属する学校又は教育委員会が以下の要領で書類を作成し、提出してください。
- 1) 公立学校の場合
 - ①学校の許可
応募教員が所属する学校の学校長が、許可書（様式 4）及び意見書（様式 5）を添えて、上記（1）の書類を学校を所管する都道府県教育委員会、指定都市教育委員会又は中核市教育委員会に提出してください。
 - ②教育委員会の推薦
各都道府県教育委員会及び各指定都市教育委員会は、中核市教育委員会経由のものを含めて応募教員をとりまとめ、推薦書（様式 6）を付して（1）及び（2）1）①の書類を「10. 応募書類の送付先」に郵送してください。
 - 2) 国立大学附属学校、公立大学附属学校、私立学校の場合
学校長作成の許可書（様式 4）、意見書（様式 5）及び、学校長もしくは法人代表者の推薦書（様式 7）を付して、（1）の書類を「10. 応募書類の送付先」に郵送してください。

※注意事項

書類をまとめる際はクリップを使用し、ホチキス止めはしないでください。用紙の大きさは、（1）5）①②を除き、すべて A4 サイズとしてください。

10. 応募書類の送付先

〒190-8518 東京都立川市緑町 10-3 国立極地研究所 広報室 電話 042-512-0655

- ・必要書類に「応募書類チェックリスト」（様式 8）を添え、封筒の表に「**教員南極派遣プログラム応募書類**」と**朱書き**して送付ください。
- ・必ず郵送（送付）してください。持参での提出は不可です。郵便事故が心配な方は追跡可能な送付方法（郵便書留や宅配便）をご利用ください。

***2024年12月5日(木) 17:00 必着**

*応募書類の受領後3日以内(土日祝日を除く)に、推薦者の事務担当者あてに受領の旨をメールでご連絡します。到着後3日以上経つと考えられるのにメールが届かない場合、必ず1.6のお問い合わせ先へご連絡ください。

1.1. 経費について

派遣に関する以下(1)～(8)の経費は、本プログラムで負担します。

- (1) 航空運賃：成田(羽田)空港からオーストラリアの往復航空運賃(空港施設利用料、空港税等を含む。)
- (2) 派遣者の居住地(または勤務先)から成田(羽田)空港までの往復交通費
- (3) 南極観測船「しらせ」乗船中ならびに昭和基地滞在中の食費
- (4) 身体検査費
- (5) 事前訓練(冬期総合訓練及び夏期総合訓練：各5日程度)参加旅費
- (6) 観測隊打合せ会への参加及び血液交差試験の受検のために国立極地研究所へ来所する場合の参加旅費
- (7) 衣類・装備経費(観測隊員に準じた衣類・装備類を支給/貸与)

※派遣教員の給与や代替教員を置く場合の経費、南極授業に使用する物品等の購入経費、国内での個別訓練が必要となった場合の経費、パスポート申請にかかる費用については、本プログラムでは負担いたしません。

1.2. 候補者となった場合

- (1) 観測隊員と同等の身体検査を受けていただきます。身体検査の結果、南極地域観測隊参加に適さない健康状態であると判断された場合は、参加できません。
- (2) 身体検査の合格後に、南極地域観測統合推進本部(本部長：文部科学大臣)に推薦し、所要の手続きを経て第67次南極地域観測隊同行者として決定します。
- (3) 国立極地研究所が実施する事前訓練及び事前打ち合わせに参加してください。
特に、2025年3月上旬に実施する冬期総合訓練(実技中心)及び6月中旬～下旬に実施する夏期総合訓練(講義・打ち合わせ中心)に参加し、観測隊の活動計画を十分理解していただく必要があります。
- (4) これまでの派遣教員等との意見交換会(5月頃オンラインで実施予定)に参加し、授業計画の事前準備と帰国後の活動計画について打ち合わせをしていただきます。
- (5) 南極地域観測事業の広報活動の目的での使用のため、観測隊同行中に撮影した画像・映像等のコピーを国立極地研究所に提供いただきます。
- (6) 終了後は、活動状況のレポートを国立極地研究所に提出することのほか、国立極地研究所及び協賛団体である日本極地研究振興会の広報誌等への寄稿、南極を題材にした教材作成について協力をお願いする場合があります。

13. 今後のスケジュール（予定）

2024 年	
9 月 20 日	本公募開始
12 月 5 日	応募締め切り、審査開始
2025 年	
1 月中旬	候補者決定
2 月～3 月頃	身体検査 その後、健康判定委員会により適否判定があり、派遣に適となれば南極地域観測統合推進本部（文部科学省）に第 67 次南極地域観測隊同行者候補者として推薦（6 月）
3 月上旬	第 67 次南極地域観測隊冬期総合訓練（長野県、実技中心）
5 月頃	教員南極派遣プログラム帰国報告・意見交換会
6 月中旬～下旬	第 67 次南極地域観測隊夏期総合訓練（打合せ中心）
6 月下旬	第 67 次南極地域観測隊同行者に決定
7 月以降	観測隊打合せ（オンライン予定、月 1 回程度）
9 月頃	血液交差試験等（国立極地研究所）
11 月下旬	観測隊 成田（羽田）空港を出発、西オーストラリア州フリーマントル港にて南極観測船「しらせ」に乗船、南極へ向かう
12 月下旬	昭和基地到着
2026 年	
1 月下旬	南極授業（1 人当たり 2 コマ×1 回を予定）
2 月上旬	昭和基地出発。南極観測船「しらせ」に乗船、オーストラリアへ向かう
2 月下旬	オーストラリアから空路帰国
5 月頃	教員南極派遣プログラム帰国報告・意見交換会

14. 応募に当たっての留意事項

- (1) 南極地域観測事業は、国の予算で実施されている事業です。本公募実施段階では 2025 年度の国の予算が成立していないため、今後の状況によっては、公募内容の変更、募集中止となる場合があります。
- (2) 昭和基地周辺の海氷状況は毎年変化しており、南極観測船「しらせ」の昭和基地沖への接岸、物資輸送など観測隊の活動にも影響を及ぼしています。観測隊の活動では、特に物資輸送は最重要事項であり、この実施状況によって、観測・設営に関する計画

が、縮小・中止となる可能性もあります。その場合、本プログラムの実施についても、当初計画から変更となる可能性があることを、あらかじめご承知おきください。

- (3) 観測隊の同行者であっても、観測隊員と同様の環境下で行動をすることになります。観測隊員の公募要項に示されている事項を以下に抜粋しますので、理解したうえで応募してください。

南極は極寒、強風、極夜の存在など、自然環境の過酷な場所です。また、南極での行動中は文明圏と隔離された少人数からなる閉鎖社会となり、国内とはかなり異なった条件下で業務に就くことになります。職務に必要な専門的知識・経験を有することはもとより、心身ともに健康で協調性があり、歴史ある国家事業に従事する観測隊員としての自覚と責任を持てることが条件となります。詳しくは、

①南極地域観測隊員として観測事業に携わることについての説明 (参考資料1)

②南極における医療の現状と限界 (参考資料2)

をご確認ください。

なお、「南極地域観測隊の医療の現状と限界」については、本公募で選考され、隊員候補者となった後、改めて説明がなされます。そのうえで、出発前に承諾書 (参考資料3) を提出して頂きますので、予めご承知おき下さい。

- (4) 選考結果の理由に関するお問い合わせには応じられません。
- (5) 候補者として選考された場合でも、訓練や打合せの状況などを踏まえ、「2. 応募の条件」を満たしていないと判断される場合は、選考を取り消すことがあります。応募書類に虚偽の記載等があった場合も同様です。
- (6) 本プログラムにおいて、企業の宣伝とみなされうる活動はできません。

15. その他

- (1) この要項に定める項目のほか、派遣に必要な事項は国立極地研究所が定めます。
- (2) 個人情報の取り扱い

本募集に関連して提出された個人情報は、「大学共同利用機関法人情報・システム研究機構個人情報保護規程」及び「大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所プライバシーポリシー」に従い、適切に管理します。個人情報は選考の目的に限って使用し、選考終了後は、採用された方の情報を除き全ての個人情報を責任を持って破棄します。

16. 問い合わせ先

国立極地研究所 広報室

メール: koho@nipr.ac.jp 電話: 042-512-0655

〒190-8518 東京都立川市緑町 10-3

(別紙様式)

2025 年度教員南極派遣プログラム応募用紙 (様式 1)

履歴書 (様式 2)

健康調書 (教員南極派遣プログラム用) (様式 3)

学校長作成の許可書 (様式 4)

学校長作成の意見書 (様式 5)

教育委員会作成の推薦書 (様式 6)

学校長もしくは法人代表者作成の推薦書 (様式 7)

応募書類チェックリスト (様式 8)

(参考資料)

南極地域観測隊員として観測事業に携わることについての説明 (参考資料 1)

南極における医療の現状と限界 (参考資料 2)

承諾書 (参考資料 3)

国立極地研究所 南極観測 教員南極派遣プログラムのページ

<https://www.nipr.ac.jp/antarctic/outreach/dispatch.html>

